

表・グラフについて

ポイント	熊本	測定日	2023/3/14
------	----	-----	-----------

日昼平均気温	9.8	夜間平均気温	6.1	24h平均気温	9.5	AM温度	55	PM温度	27	夜間温度	65	1日総日射量MJ/m ²	23.1	環境指数	5.0
--------	-----	--------	-----	---------	-----	------	----	------	----	------	----	-------------------------	------	------	-----

項目	時刻																							
	呼吸消耗抑制帯				早朝加温帯				光合成促進帯						呼吸消耗抑制帯				転流促進帯				呼吸消耗抑制帯	
	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
温度	3.4	2.8	2.3	1.8	1.4	0.8	0.7	2.4	6.2	9.2	12.3	14.5	16.2	16.9	17.3	17.5	17.1	16.0	14.0	12.6	11.8	11.4	9.7	8.9
湿度	69	73	76	79	80	79	80	69	58	40	33	26	21	23	26	32	33	44	48	56	58	65	65	69
日射量							14	172	394	597	764	867	900	858	747	575	367	144	6					
日照時間							0.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.1					
飽差	1.3	1.2	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.2	1.8	2.2	2.4	2.4	2.7	2.4	2.6	2.9	3.2	3.0	3.0	2.8	2.6	2.5	2.1	1.9
降水量																								
光合成速度指数										1	1	1	1	1	1	1	0.5	0.2						

測定日の1時間毎の値を時刻別に表示しています。日射量は、w/m²に換算して表示しています。飽差は、温度、湿度、水蒸気圧から求めています。7～2を光合成が行われる許容範囲としています。

光合成速度指数は、特定の品目を対象としているものではありません。平均的と思われる日射量(照度)と光合成速度のグラフから計算し、指数として表示しています。最高値が1です。光合成促進時間帯の指数の合計値が3.0あれば、おおむね十分な光合成が行われたと推察しています。

但し、日射量が測定されているアメダスポイントは非常に少ない状況です。この場合、飽差が許容範囲であれば、日照時間をそのまま光合成速度指数としています。指数の合計値は、日射量から求める場合より高くなる傾向があります。4.0あれば、おおむね十分な光合成が行われたと推察しています。

尚、測定値の0は、表を見やすくするために表示しないようにしています。

○温度と光合成速度指数

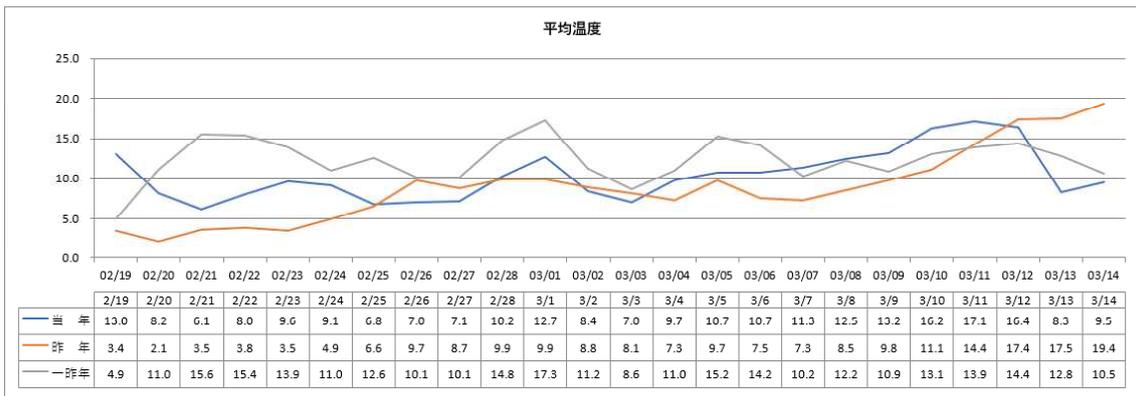


過去24日間の光合成速度指数と光合成促進帯の平均温度をグラフにしたものです。上記グラフから2月18日から1週間は光合成がやや不足していること、2月23、24日連続して光合成がほとんど行われていない事などが読み取れます。生育に対して、何らかの負の影響があったであろう事が推察されます。

光合成速度は、一般的には18～25°Cが適しているとされています。温度が低ければ、光合成速度指数は表示された値より低くなる事が推察されます。

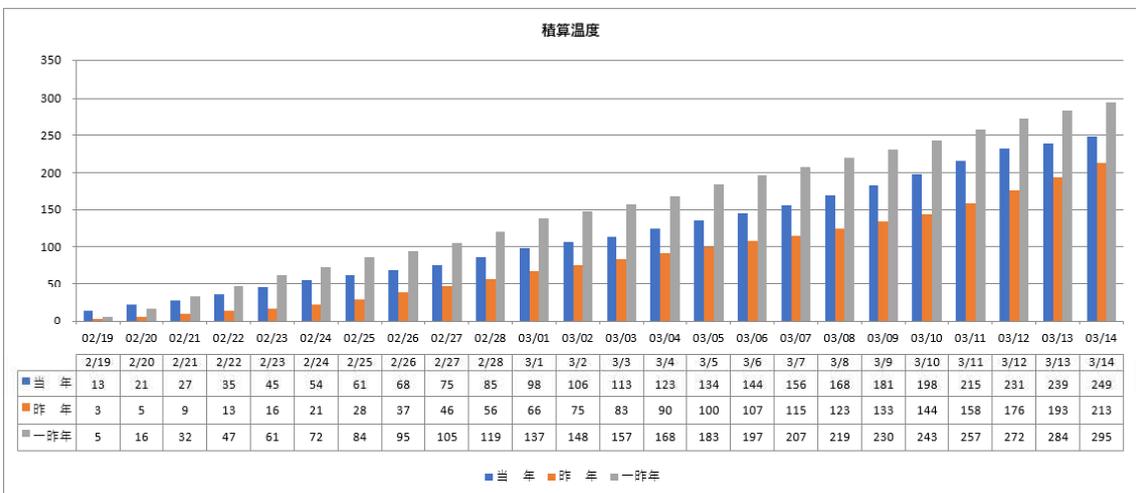
このような事も読み取ることができるとは思いません。

○平均温度



直近3カ年の平均温度をグラフ化しています。

○積算温度



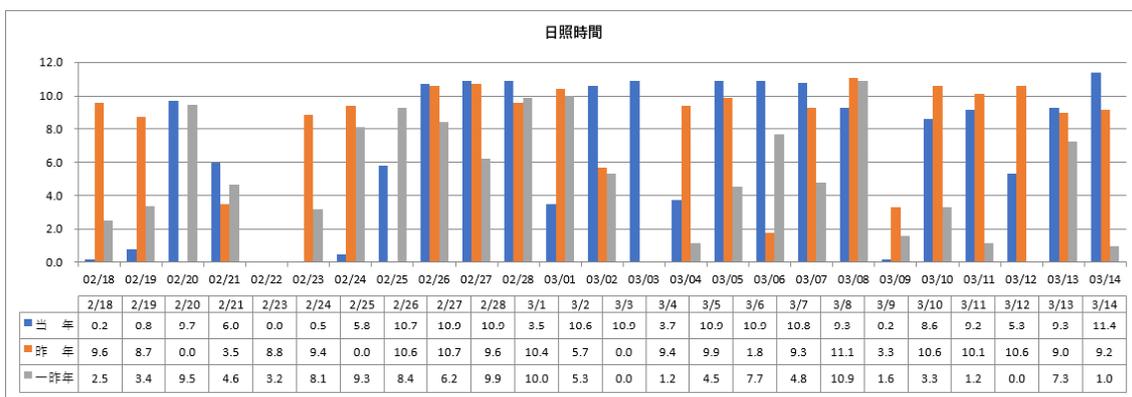
直近3カ年の平均温度の積算温度です。栽培上も良く使われます。

○促進温度帯の温度



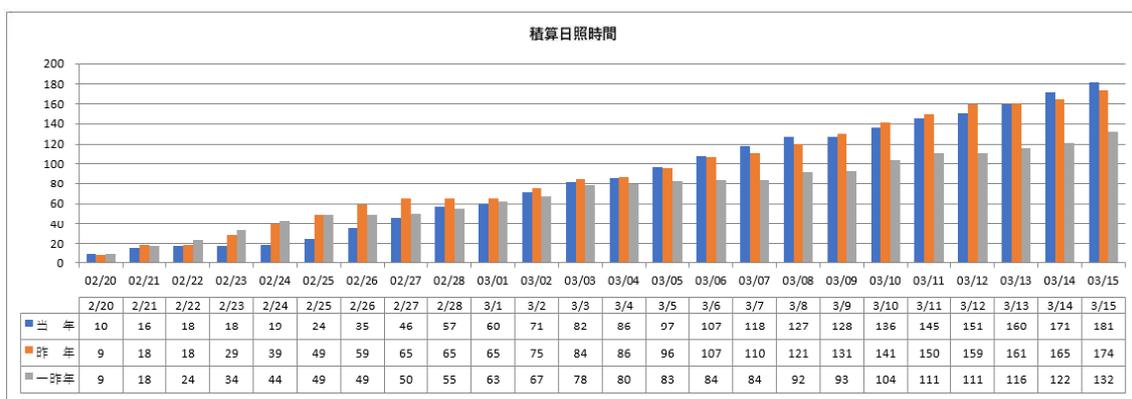
直近3カ年の光合成促進帯の日別平均温度をグラフ化しています。

○日照時間



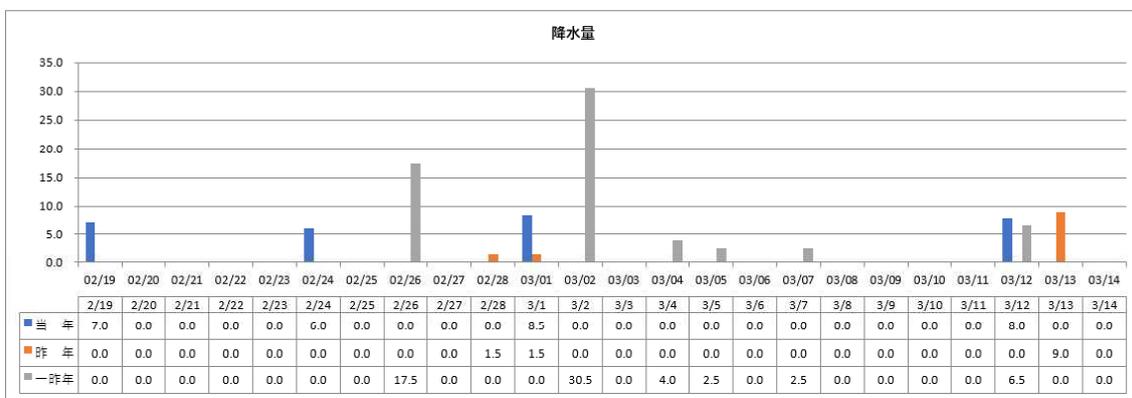
直近3カ年の日別日照時間をグラフ化しています。

○積算日照時間



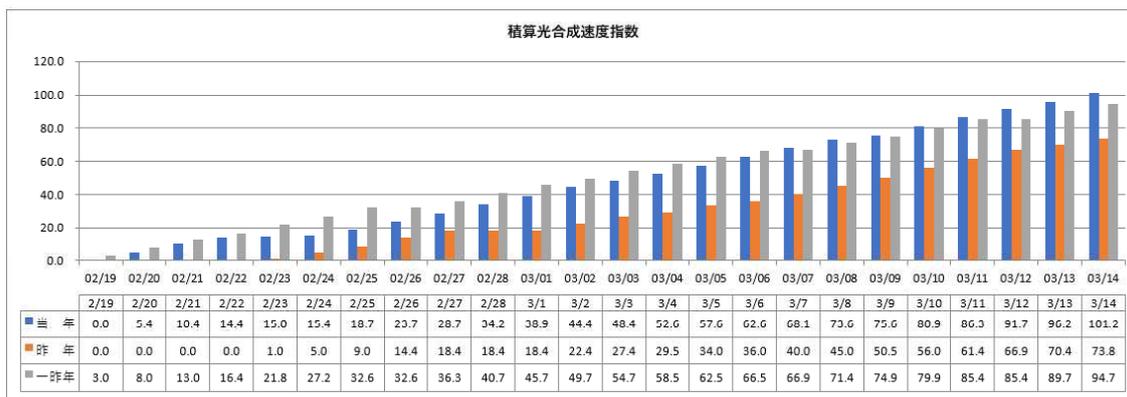
直近3カ年の積算日照時間をグラフ化しています。積算温度は、生育を判断するのに良く用いられますが、積算日照時間も重要なパラメーターではないかと思ます。

○降水量



直近3カ年の日別降水量をグラフ化しています。

○積算光合成速度指数



直近3カ年の光合成速度指数の積算値です。生育状況を判断するのに最も重要なマラメーターではないかと思えます。

尚、飽差を計算するためには、湿度が必要ですが、すべてのアメダスポイントで測定されるようになったのは、2022年10月からです。それ以前は、飽差を計算することができませんから光合成速度を求めることはできませんから、今年だけのグラフになっているポイントがあります。